

大地震関係ニュース（青森民医連）⑯

2011.3.23 12:30

青森民医連 事務局

地震・津波発生後の皆さんのご奮闘に敬意を表します。

県連内の状況を取り急ぎお知らせ致します。

全国の状況は、全日本からのニュースをご参照下さい。



宮城民医連支援 青森保健生協・第1隊報告会に114名参加！

3/22(火)18~20時、余震で揺れる中、協立病院リハ室にて宮城民医連への医療支援の報告会がありました。医療福祉生協連・山田様はじめ、法人・組織を超えて会場に入りきらないほどたくさんの参加者があつまりました。

全員で黙祷し、横田理事長から「心をひとつに支援を繋いでいこう」とのあいさつがあり、藤末会長の声明(YouTube)を見てはじめました。



【現地の体制など】

- ・ 1日2回のミーティング（8時・17時）。本部でシフトが作成される。
- ・ 看護は緊急的に2交代体制へ。
- ・ 坂病院では1日にトリアージ199名、QQ搬入49名。患者数は普段の1.5~2倍。続々と入院を受け入れ40床増となるが、ベッドコントロール（退院支援）もできている。
- ・ 避難所や集会所まで歩いて往診。
- ・ レセプト請求用の記録（氏名・生年月日・住所・診察や投薬の内容がわかるようメモをとる）
- ・ 食事はボランティアの方が担当。風呂なし。男女関係なく雑魚寝でイビキの合唱。

【被災者の健康状態】

- ・ 感染症の訴え（かぜ症状、発熱、下痢・嘔吐）が最も多い
- ・ 水不足による脱水症、塩分過多
- ・ 泥が爪にたまり破傷風に ⇒ 爪切り・歯ブラシセットなど衛生面の物資が必要
- ・ メンタル面や家族のケア…家族が安否不明になり、錯乱状態で連れてこられた方も
- ・ 避難所では「遠慮」「ゆずり合い」をしている。単身で避難している方が多いのが気になった
- ・ 一見、元気そうな高齢者も服薬を中断している。かかりつけ医に連絡がつかない

【課題】

- ・ 内服がない
- ・ 今後の診療継続をどうするか（避難所→仮設住宅などへの移動で途切れないか）
- ・ 現地+支援スタッフの配置の不均衡

- ・ 支援スタッフの自己管理・マナーなど
- ・ 被災者の言葉（宮城の方言）が聞き取れない支援者も

【その他】

- ・ 聴診器・血圧計・舌圧子・体温計・擦拭アルコール製剤などは自分で準備すること
- ・ とにかく寒い。避難所では使い捨てカイロが喜ばれた
- ・ 支援物資には同じ種類をまとめ、中身を記入すること

【感 想】

熊谷 Dr 坂総合病院のスタッフの活動とその力量に敬意を表したい
現地スタッフはみな被災しながら医療活動にあたっています。“スタッフを助けに行く”という気持ちも必要です。「東京民医連」と書いた



トラックから大量の物資が届いたのにはビックリしました。かなり長期的な支援になると思われます。明日から行けと言われれば、また行きます。

八戸 Ns 支援者同士で涙し、被災者の前では笑顔で

支援に行くことを家族に承諾をもらうまで2時間説得しました。現地では事務スタッフのトリアージや感染対策のすばらしさに感動しました。スタッフ同士、声掛けやラジオ体操で励まし合いました。「青森から来てくれたのね」と手を握ってくれたおばあさんが心に残っています。民医連という組織された中でこそできることが沢山ありました。

舛甚隊長 民医連の医療支援が、いちばん出足が速かった

「坂病院に全国から人が集まっている」と周辺でうわさになり、頼りにされていました。私自身も荷物を持ち、とにかく走りました。本部体制（管理）の弱さは感じましたが、支援者は“与えられた任務は何でもこなす”姿勢で行きましょう。帰りに被災地を見ましたが、熊谷 Dr が「もう見たくない」と言ったほど悲惨なものでした。1~2ヶ月で復興できるレベルではないと思います。

鈴木 PT 自分が12時間働けば、現地スタッフが12時間休める

メッセンジャーとして走りました。終始気が張っていました。1週間くらい行かないで行った甲斐がないと思います。院内では通常リハビリ業務を早期に復帰させ、患者様の退院支援をすることです。現状を周囲に知らせて理解を深めることができます、今後の支援の具体化につながる考えています。

